

令和6年度 太子町総合教育会議

1. 日 時 令和7年2月26日(水)
開会 午前10時30分 閉会 午前11時20分
2. 場 所 太子町立生涯学習センター「太子の森」3階 研修室2
3. 出席者
- (構成員)
- | | |
|----------|--------|
| 太子町長 | 田中 祐二 |
| 教育長 | 中道 雅夫 |
| 教育長職務代理者 | 上簗 久美子 |
| 教育委員 | 山崎 晃昭 |
| 教育委員 | 池田 利子 |
| 教育委員 | 金井 宏允 |
- (事務局)
- | | |
|---------------|-------|
| 副町長 | 村岡 篤 |
| 政策総務部長 | 小角 孝彦 |
| 秘書政策課企画担当課長 | 杉山 裕二 |
| 教育次長 | 東條 信也 |
| 教育総務課長 | 武部 勝浩 |
| 教育総務課学務指導担当課長 | 竹井 輝隆 |
| 生涯学習課長 | 松岡 健一 |
| 秘書政策課主査 | 刀根 竜平 |
4. 議 題 (1) 太子町で育む非認知能力について
(2) その他
5. 配布資料 資料1 太子町立学校園幼小中一貫教育取り組みのご報告
資料2 幼小中一貫教育で育む非認知能力と行動指針
6. 傍 聴 者 なし

《令和6年度太子町総合教育会議 議事録》

○杉山秘書政策課企画担当課長

本日は、令和6年度太子町総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただ今から、太子町総合教育会議を始めさせていただきます。

それでは、会議に先立ちまして、田中町長から挨拶をお願いします。

○議長（田中町長）

本日はお忙しいところ、総合教育会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素より太子町の教育行政にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和6年度太子町総合教育会議の開会にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。さて、本年度のテーマは「太子町で育む非認知能力について」でございます。令和4年度から「幼小中一貫教育」を始め、これまで太子町が大切にしてきた教育活動を基盤として、全ての子どもたちが互いに個性を認め合い、個に応じた力を最大限伸ばすことを大切にする教育を推進してきました。今後、さらに、学校教育だけでなく、地域社会が一体となって、子どもたちが自ら考え、行動する力を育む環境を整えていく必要があると考えております。このことから、学校、家庭、地域が連携し、非認知能力を育てる取組みを推進し、太子町の教育環境をより良いものにしていきたいと考えておりますので、引き続き、委員の皆様の忌憚のないご意見やアイデアをお聞かせいただきますようお願いいたします。

本日の会議が、町の教育行政のさらなる充実、発展に寄与することを期待いたしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

○杉山秘書政策課企画担当課長

ありがとうございました。

会議を始めさせていただきますが、議事の進行につきましては、太子町総合教育会議運営要綱第4条第1項により、本会議の議長である田中町長にお任せしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（田中町長）

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

私の方で進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、学校教育及び社会教育における今年度の取り組みや、近況

などをご報告お願いできますでしょうか。

○竹井学務指導担当課長

私からは、学校教育関係について、現状をご報告いたします。

まず、今年度の各学校の状況でございますが、令和7年2月1日現在の児童生徒数は、磯長小学校が全校生徒数441名、通常学級14クラス、支援学級数4クラス、山田小学校が全校生徒数178名、通常学級数7クラス、支援学級数3クラス、太子中学校が全校生徒数295名、通常学級数9クラス、支援学級数2クラスとなっております。

本町では、町が一つの中学校区というコンパクトな特長を生かし、町立学校園の取組みを充実させています。具体的に、「わがまち担当者会議」「支援教育担当者会議」「学力向上担当者会議」「生徒指導担当者会議」と教育委員会が主催する4つの担当者会を世話役教頭のリーダーシップのもと取り組みました。「わがまち会議」では、地域フォーラムを通して、太子町の教育活動の推進と外部への発信を積極的に行いました。

「支援教育担当者会」では、保幼小における支援教育の現場参観や、幼小中の担当者による合同ケース検討会を実施し、各校種での支援教育のスムーズな連携と情報共有が図られました。

「学力向上担当者会」では、授業の指導案を学校や園を超えて共有しやすくなるように整え、幼小中の一貫性のある授業の実現をめざしました。

「生徒指導担当者会」では、行事や探究学習を通じた発達支援的な生徒指導を校園種を超えて一体的に推進しました。

また、学校園での課題として、「不登校」「問題行動」「いじめ問題」など様々なことが生起しておりますが、SSW、SC、SLといった学校支援チームにより、普段からの学校への支援、研修や緊急支援などによって学校をサポートする体制を構築しています。今年度は、教職員のアセスメント力の向上、チームによる生徒指導体制の構築に取り組みました。

令和4年度に「非認知能力の伸長」を軸に「幼小中一貫教育」を推進し、本年度で3年目を迎えます。この後、詳細についてご説明いたしますが、これまで太子町が大切にしてきた「太子イズム」ともいえるべき教育活動を基盤とし、幼小中一貫で目ざす子ども像に向け、手段として「非認知能力の育成」を重視し、子どもたちが自ら考え、行動し、他者とつながる力を育むことを目指しています。特に「子どもを主語に」という理念のもと、大人が子どもたちの気持ちや意見を尊重し、これからも安心して自分を表現できる環境を整えていきます。

以上で現状の説明を終わります。

○武部教育総務課長

それでは、私からは、教育総務関係について、現状をご報告いたします。

まず、主な各種支援事業についてです。入学祝品贈呈事業ですが、小学校新1年生、中学校新1年生に対し、図書カードネットギフトを贈呈しています。

また、就学援助補助金として、経済的理由によりお困りの保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費、新入学用品費などを支給しております。

次に英語検定試験検定料補助金事業ですが、令和3年度より、町立中学校に限定していた対象者を、町立の小学校5年、6年生並びに、私学の小学生、国立等も含め、対象範囲を拡大しています。この事業については、子育て支援並びに英語教育の充実に非常に寄与している事業であると考えております。

今後も各種支援事業につきまして、引き続き支援を実施してまいります。

次にトイレ改修についてですが、「小中学校トイレ改修計画」に基づいて、令和2年度から計画的に順次各学校のトイレ改修を実施し、令和8年度を目標に終了予定となっております。改修の内容ですが、便器を洋式に、手洗いについては、非接触型に改修を行い、今年度は山田小学校南校舎を改修し、来年度は中学校本館のトイレ改修を予定しております。

また、小中学校の体育館の空調整備についてですが、3月議会でご議決頂いた後、令和7年度に実施設計を行い、令和8年度に設置工事を進めていきたいと考えております。

次に学校給食についてですが、令和5年度より給食費の完全無償化を実施いたしまして、今日に至っております。本町の給食は子どもたち、保護者の方、先生方より栄養バランスのとれた大変美味しい給食であると、喜んでいただいております。また、献立の工夫や、地産地消に努め、栄養教諭を中心に、授業を通した食育の取り組みも更に進めていきたいと考えております。今後も引き続き安心・安全で美味しい給食の提供に努めてまいります。

以上で説明を終わります。

○議長（田中町長）

ありがとうございます。続いて、松岡課長お願いいたします。

○松岡生涯学習課長

それでは、生涯学習課の主だった取り組み等について、簡単にご報告申し上げます。

令和6年度の生涯学習関係事業でございますが、新型コロナウイルス感染症の5類移行から2年近くが経過しております。昨年度よりスポーツ大会、文化祭やふれあい TAISHI、20歳を祝う会などのイベントについては、通常通り開催させていただいており、様々な団体やたくさんの住民の方に参加していただいている状況でござ

ざいます。

同様に、青少年指導員会やリーダー会、また、スポーツ推進委員や体育連盟などの社会教育関係団体の各事業についても実施しておりますが、リーダー会の「サマーキャンプ」、大道旧山本家住宅でかまど DE 茶がゆなど一部のイベントについては参加者が伸びず、中でも「サマーキャンプ」においては、やむなく「デイキャンプ」に変更し開催するなど、参加者数の減少が顕著に表れています。

これら令和 6 年度の状況を踏まえ、今後、事業内容、実施時期などの見直しや情報発信の手法などを工夫するなど、令和 7 年度以降の事業展開については、各種団体と検討を進めて参りたいと考えているところでございます。

また、同様に先月の 8 日に予定しておりました南河内地区市町村が主催である「第 67 回南大阪駅伝競走大会」についても、実施可能チーム予定数である 100 チーム程度に対しエントリーが少なく中止となった状況でございます。半世紀以上にわたる伝統行事ではございますが、令和 7 年度に開催の可否や新たな行事の開催など様々な角度から検討されるものと考えております。

このように新型コロナウイルス感染症が生んだ空白の期間が、社会教育関係団体の各イベントをはじめ、様々な生涯学習に係る事業や、コミュニティに影響を与えていることから、今後においても、住民ニーズを的確に把握し、より効果的な事業展開を進めていきたいと考えております。

そのほか、スポーツ振興といたしましては、公民連携を活用した、FC 大阪「太子町民デー」のチケット配布やエネオスサンフラワーズのバスケットボールクリニックなどの連携を引き続き行っております。

一方で、図書館機能を備えた、生涯学習センター「太子の森」については、令和 4 年 7 月の開館以降、クラブ活動、図書館、交流室などは公民館時代に比べ利用者数も増加傾向にあり、老若男女問わず、多くの子どもたちも集える場所として認知されてきております。

以上が、スポーツ及び文化振興の主な取り組みでございます。

次に、文化財保護でございますが、平成 28 年度より取り組みを進めている国指定史跡二子塚古墳保存整備事業ですが、国庫補助金の交付額見合いで施工しており、令和 11 年度末完成を目途に進めているところでです。

このほか、令和 5 年 10 月に寄付をうけました叡福寺前の国登録有形文化財「山本家住宅」有効活用検討の取り組みとしまして令和 6 年 1 月に庁内部の会議体となる「山本家住宅有効活用検討会議」を発足させ、関係 5 つの課の課長が集まり検討を進めています。具体的には、11 月 23 日、24 日には、結縁祭の会場として活用し、多くの皆さんに住宅の 1 階部分を見ていただきました。

また、現在は古民家等の歴史的建築物の再生・活用によって、全国 32 地域で、まちづくりを行う NIPPONIA の事業化に向け取り組みを行っております。

以上が、生涯学習課の取り組みと近況報告でございます。町の財政が厳しい中ではございますが、「太子町教育大綱」の基本目標を達成できるよう事業実施に努めてまいりたいと考えています。

以上でございます。

○議長（田中町長）

はい、ありがとうございました。

私の方からも生涯学習の事業に関連することでひとつ報告です。

先日、自衛隊の方から、新たに防衛大学校に入学されるという方が、表敬訪問にお越しいただきました。ご存じのように、防衛大学校への入学は非常に難しいです。その中で、一年間、太子の森の図書館でずっと勉強していたというのを伺いました。我々としても嬉しく思ったので、ご紹介させていただきました。

それでは、これからお手元の会議次第により決めさせていただきます。

議題１、「太子町で育む非認知能力について」説明をお願いいたします。

説明後に委員の方にご活動いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○竹井学務指導担当課長

私からは、「太子町で育む非認知能力」について、机上の資料に沿ってご説明いたします。

令和４年度より、太子町では、太子町小中一貫教育基本方針に基づき、幼小中一貫教育を開始しました。本方針の第１期にあたる令和４年度から６年度の３年間を幼小中一貫教育のスタートアップ時期として位置づけ、町全体で義務教育９年間に幼児教育の３年間を足した１２年間を通じた「学びの連続性」と「系統性」を強化するため、幼小中学校の連携を深めるとともに、子どもたちの成長を支える取組みを進めました。

「太子町立学校園幼小中一貫教育取組みのご報告」を開いて「太子町の幼小中一貫教育３年間のあゆみ」のページをご覧ください。

予測困難な変化の激しい社会を生きていく中で、子どもたちは、学力だけでなく、豊かな心や健やかな体をバランスよく育むことが求められています。この取組みでは、幼小中一貫でめざす子ども像を、手段として「非認知能力」の育成を重視し、子どもたちが自ら考え、行動し、他者とつながる力を育むことを目指しています。

「豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため、自ら考え、動き、相手を大切にできる人」を育てること。これこそが太子町の幼小中一貫教育で育みたいと考えている子ども像です。

幼小中一貫教育でめざす子ども像、これを絵にかいた餅にしないように、具体的

な取組みを通じて、子どもたちが実際にこの目標を達成できるよう努めています。

めざす子ども像の「自ら考え、動き、相手を大切にできる人」を「自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力」に置き換えました。そして、子どもたちが社会に出たときに必要とされる力として、さらに詳しく、7つの非認知能力を示し、この7つの力を効果的に育成するために、太子町では、「ループリック」という行動指標を導入しています。これは、子どもたちの行動を具体的な言葉で示し、どのような力が育まれているかを可視化するためのツールです。ループリックを活用することで、教員は子どもたちが成長しているポイントを細かく把握し、それに基づいて指導やサポートを行うことができます。また、子どもたち自身もループリックを参考に、自分の強みや課題を理解し、目標に向かって自分を調整する力も養われます。

ループリックによる評価と指導を基に、太子町では「キャリアパスポート」を導入し、子どもたちが自己成長を振り返り、将来の目標に向かって進む姿勢を育んでいます。キャリアパスポートでは、子どもたちが自分自身の目標設定や学びのプロセスを記録し、学期ごとにその進捗を確認します。キャリアパスポートは幼稚園から中学校まで一貫して使用され、学びの連続性が確保されています。

このように太子町の幼小中一貫教育では、めざす子ども像をもとに7つの非認知能力を設定し、ループリックの活用、そしてキャリアパスポートを通じて、子どもたちが、「自ら考え、行動し、相手を大切にする」力を実際に身に付けられるよう取り組んでいます。

取組み開始時の令和4年度のテーマを「教職員の交流」とし、教職員間の連携を強化するための研修を多く設定し、学校や園を超えた交流により、教職員が他校園の校内研修に参加しやすい環境を整えました。そして全教職員が「非認知能力」を育成するための具体的方法をまとめた冊子を作成し共有をはかりました。

2年目の令和5年度のテーマを「子どもの交流」とし、教職員研修でレゴブロックを用いたワークショップを行い、幼小中一貫教育における大人の子どもへのかかわり方を考える機会が生まれ、「子どもを主語にして考える」という共通の理念が決定しました。

3年目にあたる令和6年度（今年度）のテーマを「カリキュラムの交流」とし、小学6年生と中学1年生が太子町を題材とした探究学習を通してカリキュラムの交流を行いました。

ページをめくっていただいて、「太子町の幼小中一貫教育3年間の成果」のページをご覧ください。

幼小中一貫教育では、「子どもを主語に」という理念のもと、めざす子ども像に向け、非認知能力の向上を手段に取組みを推進してきました。これに基づく子ども意識調査の結果からいくつかの重要な成果が見られました。

3年間の調査結果では、「あきらめない力」や「自分を調整する力」も年々高まり、子どもたちが自ら挑戦し、困難に立ち向かうなかでの経験が数値に表れました。さらに「困ったときに友達に助けを求める」「新しいことに挑戦する」といった積極的な姿勢もみられるようになっていきます。特に、子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と強く感じている割合が大幅に増加しました。令和4年度には、26.88%だったこの項目が令和6年度には47.21%に達し、約20%もの増加を記録しています。つまり、学校の「Well-being」の向上につながりました。

このような取組みを令和5年度には、大阪府教育庁地域教育振興課主催の「未来に向かう力育成セミナー」にて事例を発表し、今年度は、先日行われた「令和6年度未来に向かう力育成セミナー」にて動画での発表を行いました。冊子3ページ目の右下の二次元コードを読み取っていただくか「太子町幼小中一貫教育」で検索してください。

また、太子町での取組みを兵庫県加西市、山口県山口市、東大阪市、京都市、城陽市、など多くの他府県からの視察を受け入れております。

今後も非認知能力の育成を手段としてとらえ、幼小中の子どもたちが自ら学び、成長する姿勢を支える取組みを推進していきます。また、地域、家庭との連携を強化し、太子町の子どもたちを町全体で育てる体制をさらに発展させていきます。

以上で太子町立学校園幼小中一貫教育の取組の報告を終わります。

○議長（田中町長）

はい、ありがとうございます。

それでは、ただいまの内容について、何かご感想、ご意見等ございますでしょうか。

○中道教育長

3年間、非認知能力の育成にチャレンジしてきました。先ほど竹井課長の報告がありましたが、「子ども主語に」という理念がひとつ大きかったと思います。いつも子どもたちにとってどうなのかということを意識して、学校で子どもと向き合うところ、再確認できたのではないかなと思います。その中で、大変うれしいことですが、学校が楽しいと強く肯定する児童生徒が増えました。この数字については、もっともっと上げていきたいと思っています。

子どもたちは非認知能力を育む中で、やはりそれぞれの自己肯定感を高めていっているんじゃないかなと思います。その高めた自己肯定感が、次になにかをやってみようという挑戦する気持ちにつながっていると感じています。豊かな人生とよりよい社会を主体的に作る、自分から豊かな人生、ある面では幸せな人生って言い変えられるかも知れないですし、社会全体もより良い社会を作る、自分もその一員として

作っていかうとする、そのめざす子ども像は非常に明確でわかりやすいと思ってます。その中で、いま取り組んでいる非認知能力を育成することが、子どもたちひとり一人の幸せになる力であると信じて取り組んでいます。

町の広報紙でも紙面をいただいて、こんなことをやってますよということを説明しながら、ずっと発信し続けてきました。令和7年の3月号にも2ページいただいて、掲載しております。このアピールし続けているということは、とても大事なことで、今年小学校に他市町村から転入される保護者の方のその転入の決め手が、太子町の教育を見て、来たいということで、大変うれしく思っています。また、太子町の取り組みが、地域、大阪府内外で注目され、多くの視察を受け入れており、その新しい出会いの中で学びが深まるなど、それもとてもうれしく思っております。

令和7年度で4年目になりますが、教育委員会、保護者、地域、学校が一体となって非認知能力をもっともって育成して、その裏側にある認知能力も一緒にじっくりと育てていきたいと思っております。以上です。

○議長（田中町長）

はい、ありがとうございます。

非認知能力の取り組みとして、ボーク重子さんの来年度の事業について、説明をいただきたい。

○東條教育次長

ボーク重子さんにつきましては、これまでの太子町の活動状況などを見ていただき、去年、太子町に表敬訪問という形でお越しいただきました。その時に町長、教育長と対談、そのあと各学校園の校長先生ともお話しをしていただきました。今月8日のPTA連絡協議会の講演についても、快くお受けいただきました。

来年度について、町長からもありました。これは来年度の予算の議決いただいてからにはなりますが、来年度、ボーク重子さんに計5回ぐらい来ていただこうと計画しております。講演会を1回、研修を4回、計画しております。4回の研修は、ボーク重子さんが、家庭、地域での非認知能力を育成するテクニックを研修会という形で実施していただく予定です。あとふれあい TAISHI にも来ていただけるようなお話も聞いております。2月18日にもボーク重子さんが、来年プログラムを進めるにあたって、住民の皆さん、子育て関係者の皆さんの意見をお聞きしたいということで、ここ、生涯学習センターにお越しいただきました。各子育て関係者の方、実際にいま幼児や小学生を育てている保護者の方、役場の関係者も含めて、意見交換を行い、来年度にボーク重子さんと共に太子町全体で非認知能力を育む事業を進めております。以上です。

○議長（田中町長）

はい、ありがとうございます。

他になにかございますでしょうか。

続きまして、議題2のその他ですが、この際ですので、委員の皆様から何かございますでしょうか。自由にご発言いただけましたらと思います。

僕の方からよろしいでしょうか。

中学校の制服が変わると聞きましたが、説明をお願いします。

○竹井学務指導担当課長

はい。いま大阪府中で、学ラン、セーラー服が、太子町立中学だけになってしまっております。そして、LGBTQなど多様性の中で、中学校の制服も変えていかないといけないということで、今年度から積極的に動き出しました。まず、制服をどれにするかというところで、制服検討委員会を立ち上げ、PTAの方、生徒、教職員の意見などを拾いながら検討しております。今の5年生から変わるという方向で進めております。

○議長（田中町長）

はい、わかりました。

来年度の6年生から変わるわけですね。制服はもう全部、保護者負担なのか。

○竹井学務指導担当課長

そうです。

○議長（田中町長）

わかりました。ありがとうございます。ほかに何かございませんでしょうか。

○上籾委員

最近ちょっと感じてることが2つほどあります。令和4年度から3年間、幼少中一貫教育進められて、また最近その手段としての非認知能力を育成した環境をすごい整えておられるんですけど、振り返ってみると、太子町の教育では以前より取り入れられたプログラムや環境だったと思っています。新しいことを取り入れて進めているという感覚ではなく、前からされていた大事な部分を改めてちょっと分かり易く可視化して、プログラムの再構築を行ったという認識です。例えば磯長小学校では、1年6年、2年4年、3年5年のペア学年での二上山登山、仲良し給食とか、あと山田小学校では縦割り活動、もちろん、保育園、幼稚園、小学校の交流、関りもありましたし、中学校ではメイクハートとか、業間運動では特に協力しあったり、

ちょっと厳しいなと思うことでも自分と向き合って、どうやって乗り越えていこうかみたいな、そういった取り組みなどを昔からされていたことだと思っています。

そんな太子町の教育を受けて、地域の皆さんにも見守られて成長した子どもたちが、いま成人して大人になって、社会に出てそれぞれの場面で活躍されていると思います。昨年末、太子町のホームページにも載っていたと思いますが、M-1 の芸人の方が太子町出身だと伺いました。太子町の教育を受けられた方が、成人されて社会に出て、テレビに出て活躍されていました。またスポーツ界では、バレーにも太子町出身の方がいらっしゃいます。そのバレーの選手はテレビに映りますが、前日観戦したバレーの試合で、線審の方でも活躍されてる方もいらっしゃいます。活躍の場面は色々だと思います。また、最近ではダブルダッチで世界大会に出られた方もいらっしゃると伺いました。そういった情報はあまり、私たち住民にも広がってないと思います。せっかく太子町の今までの教育を受けて、色んなところで活躍された方達の情報が、太子町の中で住んでてもあんまり聞こえてこないというのが、少し寂しいなと思っています。地域の方が色んなところで活躍されているのを見聞きすると、子どもたち自身にもすごく夢や希望を与えてくれるし、地域の方達には、「あのランドセルを背負っていたあの子が」とか、懐かしい気持ちとか、やっぱり応援したい気持ちとかにも繋がっていくと思います。そういった情報を得られるのは、今のところ口コミとか噂話とか、出た後に出てたらしいよとか、それぐらいです。相手の方にも許可を取りながらになってくるとは思います。もうちょっとホームページで紹介したり、アピールしたり、提携してみたりすることで、もっともって太子町の今までの教育があつての、この新たな幼小中一貫教育、非認知能力というのが、さらに浮きだってくるとは思います。せっかくだから、太子町の中にもいろいろ活動している団体、子ども会、PTA、リーダー会、青少年指導員会など、その活躍されている方に来ていただいて、講師をしていただけるような流れ、システムを作っていただきたい。そうすることで、卒業生がこのように活躍しているということが、子ども達には夢や希望を与え、地域の方もうれしくなり、ご本人達にとっては活躍の場が増え、応援してもらえるのが実感でき、ご本人達にもいいことだと思う。ウインウインなことだと思うので、情報の共有だったりをもうちょっとしていただくと、他の地域からも「太子町の教育は、昔から子どもたちが活躍している。引っ越し先の住居を構える先の検討のひとつにあげてみようかな」と繋がっていけばいいなと思いました。

もうひとつ、先ほど武部課長からの報告で、英検の事も報告に上がっていました。英検の補助金は、やはり家庭としてはすごくうれしいし、せっかくだから受けてみると家庭では応援する方向になってるのを、いろいろなご家族から聞くことが多いです。英検の合格率が高くなっているというのを以前の定例会でもご報告いただいています。補助金があるというのと合格率が高くなっているというのは、切り離せない

部分だと思っています。先ほど教育長も仰られた非認知能力を大事にしながら、認知能力の方もやっぱり大事というところで、今高校受験でも、大学受験でも、英検の重要性が上がってきています。やっぱり、小学校5、6年生ぐらいから補助していただいて、もし、少子化で対象が少なくなってきたら、その分の予算は高校生に回していただきたい。高校まで補助はなかなか難しくても、2級を受ける子だけ補助しますとか、2級合格した子だけ後払いで補助しますとか、高校生は条件付きで補助をして、それを対外的にアピールすると、小学校でこちらに引っ越しても小中高とそうやって補助もあるんだと、皆さんにアピールになると思います。さらに少子化が進んだ後、大人の限定補助もどうかと思っています。大人の検定の補助は、漢検とか限られたものになってくるとは思いますが、太子町は検定の町ですという、ひとつのアピールに繋がっていくんじゃないかなと思います。非認知能力ってというのは、お子さんを持つご家庭にはすごく太子町の教育は魅力的ですというアピールになっているけど、結婚しない方、お子さんをもたれないご夫婦というのもしらっしゃると思います。そういった層にも、太子町は検定の町ですというアピールができるのではないかなと思っています。生まれた時から、高齢者になるまで、学んでいく町ですよっていうのが、ひとつの太子町の魅力アピールに繋がっていくんじゃないかなと思います。先日、英検の合格率が高くなっているというのを聞きしたときに、太子町の未来を考えた時にふと思いました。以上です。

○杉山秘書政策課企画担当課長

1つ目におっしゃっていただいたM-1の芸人コンビについて、私どももその情報を入手いたしまして、年末にホームページに載せさせていただきました。私ども企画担当として、太子町出身の方の活躍について、いろんな方から情報を受けまして、精査しながら行っているところです。実際に、ダブルダッチの件についても、世界大会に優勝され、山田小学校に来られるっていうことで、磯長小学校の方にも行っていただき、表敬訪問ということで実施し、それを3月号広報にも掲載するなどの調整をいたしました。これからもそういった形で情報発信等、繋げていきたいと思っています。以上です。

○東條教育次長

教育委員会としても、前田大然選手含めてこれまでもご協力いただいているところですが、上籾委員がおっしゃっていただいたような形で、企画担当と教育委員会と連携を取りながら出来るだけ情報を収集し、教育委員会の各事業で繋がれるようなことがないか模索しながらしていきたいと思っています。

また、教育委員会という中山久蔵翁も太子町出身です。やっぱり地域愛の醸成という観点から、先ほどの前田大然選手についても、以前テレビで、太子町の自宅

の子ども部屋で、ずっとサッカーの練習していたという放送を見ました。やっぱり太子町での子育てっていいのか、前田選手も太子町で生まれ育ったんだなと思うので、企画担当と協力しながら活かせるところは活かしていきたいと考えています。

○議長（田中町長）

また検定についても、今すぐは難しいと思うが、どんなことができるか検討していかないといけない。

ホームページもやってるけど、LINE も登録者をもうちょっと増やさないとけない。ホームページは見に行かないと見れないけど、LINE はプッシュ型でこっちから情報提供できる。考えていかないといけない。

他に何かございませんでしょうか。はい、それでは、本日の議題についてはすべて終了となります。

本日は、貴重なご意見等をいただきありがとうございました。

引き続き、より質の高い教育行政をめざして取り組んでまいりますので、今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。それでは、事務局の方にお返しいたします。

○杉山秘書政策課企画担当課長

ありがとうございました。

それでは、令和6年度太子町総合教育会議を終了させていただきます。皆さん、本日はありがとうございました。